

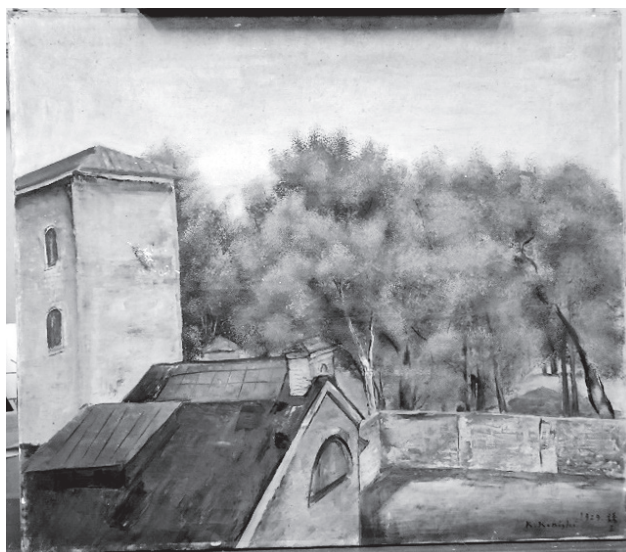
## 油彩画 小西謙三「風景」の修復における光学的科学調査

大原秀行

絵画の修復において、修復過程で光学的科学的分析を行うことは非常に有効な手段であり、時には思いもよらぬ分析結果が得られることがある。

小西謙三の油彩画作品「風景」は、広島県福山市にある「ふくやま美術館」（広島県福山市西町2-4-3）から修復を依頼された作品である。

作 者：小西 謙三  
題 名：「風景」  
制作年：1929年  
寸 法：60.5cm×72.7cm  
支持体：キャンバス  
技 法：油彩  
ニ ス：あり  
木 枠：あり  
額 　：あり  
ガラス：なし  
バックパネル：なし  
所蔵者：ふくやま美術館



### 【状態】

- ・作品全体に激しい波うち
- ・画面表面に塗られたニスに激しい黄変化
- ・画面表面の絵具層の剥離、剥落

画面左↓26cm→13cm部分に直径約3cmの支持体キャンバスの激しい膨らみと、それに伴う絵具層の剥離・剥落（裏側からの外力によるものと思われる）（写真A・B）

- ・画面上部やや右、支持体キャンバスの膨らみあり
- ・画面周辺部に擦れ、絵具層の剥離、剥落、キャンバス地の破損あり

この作品は、小西がロシアに滞在中の1929年に描いた作品で、前方に建物が描かれており、その後

方に木々が緑の葉を茂らせているものである。

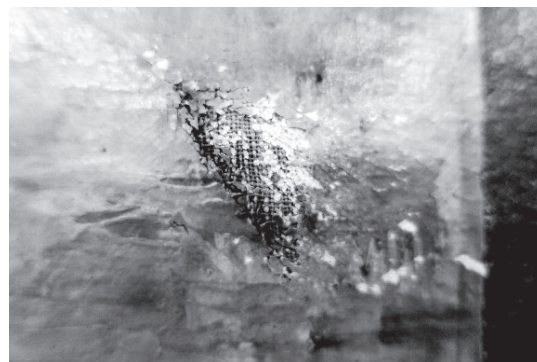
作品の状態は上記の通りであるが、特に左側にある建物の壁部分には、キャンバスの裏側から何か**がぶつかった衝撃で起こったと思われる大きな絵具層の剥落**があり、その部分は表側に膨らんでいる。

また、作品全体に大きな凸凹がある。更に、作者が作品の完成後に塗布したワニスが、経年により激しく黄変化を起こしている。

- ・画面左↓ 26cm→13cm部分



【写真 A】



【写真 B】 拡大写真

修復作業の手順は下記の通りである。

#### 【修復処置】

- ・写真撮影（普通光線照射写真、紫外線照射写真、斜光線照射写真、赤外線照射写真）
- ・作品表面のクリーニング（お湯で湿らせた綿棒を使用）
- ・支持体と木枠の解体
- ・木枠のクリーニング（刷毛・お湯で湿らせた綿棒・固く絞った布を使用）
- ・作品裏面のクリーニング（刷毛、Hepa フィルター付き掃除機を使用）
- ・支持体両面のプレス（袋状にしたポリエステル素材のビニールシート {シリコンシート} の中で、熱を加えながら袋の中の空気を吸引し規定剤をプレスし、表面の凹凸や波うちを抑えた）
- ・支持体表面に塗られた黄変したニス除去（エタノール・綿棒を使用）
- ・木枠接着部分への補強措置（接着剤の塗布・補強帯の接着…脆くなった4辺に幅10cmのキャンバス地の帯を接着し補強する。接着剤として熱可塑性 BEVA を使用）
- ・絵具層剥落部へは充填（ウサギ膠と炭酸カルシウム）を行ない、成形の後アクリル・水彩絵具で補彩。
- ・木枠への張り付け
- ・ニスの塗布
- ・報告書作成

紫外線照射画像によっては何の情報も得られなかったが、これは作品が描かれて以降、修復等によって画面上に絵具の加筆がなかったことがわかる。(写真 C)

斜光線照射画像から判断できることは、画面の左側の建物の壁に出来ている大きな絵具層の剥落が出来た原因である。画像から、明らかに剥落部分が表側へと膨らんでいる。これは作品の裏面から何らかのものがぶつかり、表側に膨らんだものである。

また、作品中央部に縦方向に見られる2本の筋、及び作品上部に見られる横方向の筋部分の凹凸は、長年この作品が裏側からの保護（パネル）なしに存在したために、裏面からの湿度の影響を受けて、キャンバス地の伸び縮みによって出来てしまった凹凸と判断できる。(写真D、E)



【写真C】紫外線写真によって、加筆等は特に見られなかった。

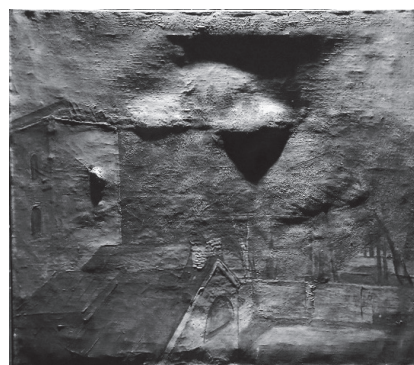
作品全体に激しい波うちが見られる

最後に赤外線照射



【写真D】

左方向からの斜光線写真



【写真E】

上方向からの斜光線写真

によってこの作品を観察してみたのだが、予期せぬ画像がモニターを通して観察出来た。

建物の後ろに生い茂っている緑の木の葉部分に、肉眼では見られなかった建物の稜線がはっきりと観察できた。更に何やら文字らしきものも観察出来た。この文字らしきものは

恐らくロシア語ではないかと推測し、ロシア人にその画像を見せたところ、мебельと記されており、これは日本語では「家具」を意味するものであることが分かった。(写真F)

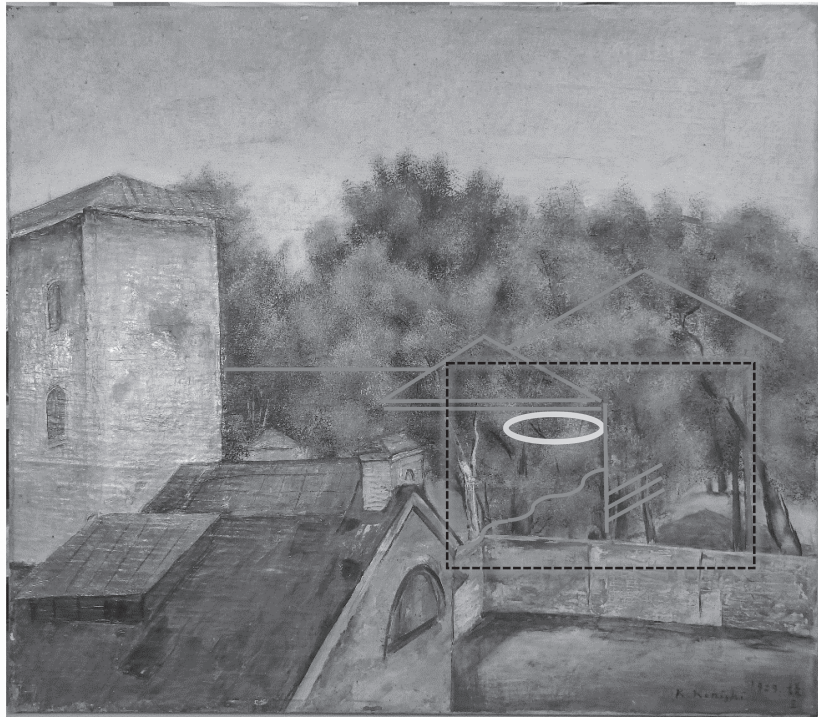
この赤外線照射による画像から、作者の小西謙三は最初に建物をすべて描き、その時点では他の建物も存在しており、その建物の壁に м е б е л ь と書かれていたのだが、作品の構図を考えてその後木々を描き加えた時に一部の建物と共にこの文字も塗りつぶしたものと推測される。

このことから、この作品は小西謙三が作品を仕上げる際の苦悩が垣間見える作品である。

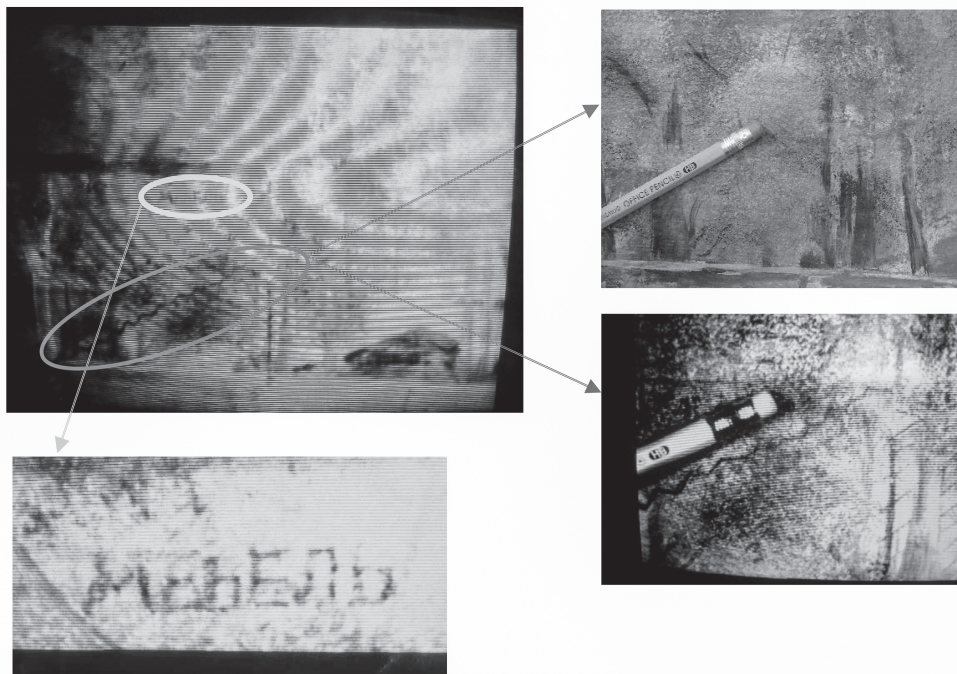
なお、この作品は修復完了後、ふくやま美術館に返却されている。



【写真F】



- 赤外線照射により見られたおおまかな下書きのあと
- 文字らしき影が確認できた部分
- 部分拡大 赤外線照射図↓



赤外線による調査

“мебель”と記された文字（※мебельの拡大写真の下に記載）

